

**「EOS R システム」を強化
次世代フルサイズミラーレスカメラ「EOS R5」とRF レンズを開発**

キヤノンは、長年カメラの自社開発で培ってきた CMOS センサーや映像エンジン、光学などの技術を結集し、「EOS R システム」の次世代フルサイズミラーレスカメラ「EOS R5」を開発しています。また、2020 年中の発売を目指し、計 9 機種 of RF レンズの開発を進めています。魅力的なカメラ、レンズをラインアップに加えることで「EOS R システム」を強化していきます。



EOS R5 * 「RF24-105mm F4 L IS USM」装着時



RF100-500mm F4.5-7.1 L IS USM

「EOS R システム」は、レンズ設計の自由度を高める大きなマウント径とショートバックフォーカス、レンズとカメラ間的高速通信システムという特長を備え、高画質化と利便性の向上を実現するイメージングシステムです。

現在開発中の次世代フルサイズミラーレスカメラは、「EOS R システム」の特長を生かし、さらなる高速連写や 8K 動画撮影を実現し、映像表現の幅を広げることを目指しています。また、通信機能や操作性・信頼性をさらに高め、ワークフローを効率化することができます。これらの機能により、EOS シリーズの基本コンセプトである「快速・快適・高画質」を高い次元で実現します。

「EOS R システム」の次世代フルサイズミラーレスカメラの第一弾となる「EOS R5」は、新開発の CMOS センサーにより、電子シャッターで最高約 20 コマ/秒、メカシャッターで最高約 12 コマ/秒の連写性能の実現を目指しており、スポーツなど高速で動く被写体にも対応します。また、8K 動画の撮影が可能となることで、高精細な静止画の切り出しやより高画質な 4K 動画に加工でき、映像表現の幅が広がります。加えて、キヤノン初となるボディ内手ブレ補正機構と RF レンズのレンズ内手ブレ補正機構の双方を協調制御する方式を採用することにより、さらに高性能な手ブレ補正を目指します。また、新たにデュアルスロットに対応するほか、カメラからクラウドプラットフォーム「image.canon」への画像自動転送機能を搭載する予定です。

さらに、RF レンズ「RF100-500mm F4.5-7.1 L IS USM」および、同機種に装着可能な「エクステンダー RF1.4×」、「エクステンダー RF2×」を開発しています。これら 3 機種を含む計 9 機種 of RF レンズを開発しており、2020 年中の発売を目指します。

<ご参考>

2020 年 2 月 27 日から 3 月 1 日までパシフィコ横浜で開催されるカメラと写真映像のワールドプレミアショー「CP+ (シーピープラス)」のキヤノンブースにおいて、開発中の「EOS R5」ならびに「RF100-500mm F4.5-7.1 L IS USM」と「エクステンダー RF1.4×」、「エクステンダー RF2×」を参考出展します。